

【展示フィールド】 ホタル展示室(ホタルのへや)

【該当する学年】

小3

小4

小5

小6

中1

中2

中3

【展示の説明および学習内容（ねらい）】

☆ ゲンジボタル(以降、「ホタル」と記す)飼育専用設置しているホタルピオトープ水槽には、飼育室で育てた終齢に近い幼虫を放流しており、ホタルの幼虫が蛹になる過程で、水中から陸上に移動するための上陸機能を備えている。

ホタルピオトープ水槽内は餌となったカワニナ殻などがあり、放流中の幼虫を観察することが難しいため、入り口近くに別途幼虫観察コーナーを設け、1齢～5齢の幼虫を、来館した時期のホタルの成長に合わせて展示している。

壁面のパネルでは、ホタルの一生や宮崎市内にあるホタル保存会等の活動地域を紹介している。

入り口から見て左側の水槽には、コガタノゲンゴロウやミズカマキリ(展示生体は、季節や採集状況によって変更)など、主に田んぼや池などで見かける身近な水生昆虫を展示している。

☆ 小学校3年の「身の回りの生物」や小学校4年「季節と生物」において、昆虫の生涯や季節ごとの変化をとらえる上で、卵から幼虫、蛹、成虫へと一年ごとに世代交代を重ねていくホタルは、有効な教材である。

標本や写真ではない生きた水生昆虫を観察することは、中学校2年の「動物の仲間」において無脊椎動物の特徴をとらえさせる上で効果があるとともに、「動物の体のつくりと働き」において、呼吸や筋肉の動き等を観察させる上でも有効である。

水生昆虫の水槽では、昆虫が捕食する様子を容易に観察できることから、小学校6年の「生物と環境」において、捕食・被捕食の関係を実際に観察することができる。

環境の変化に敏感なホタルや絶滅が危惧されるようになってきた水生昆虫について学ぶことは、総合的な学習の時間等で環境保全について考えさせることもできる。

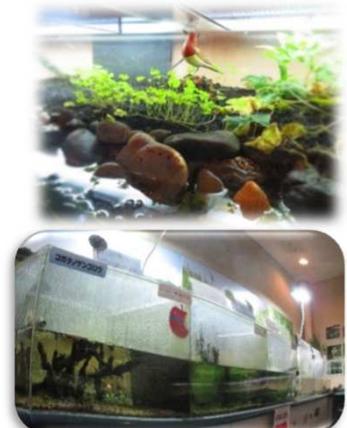
【写真】



【パネル・幼虫展示】



【ホタルピオトープ水槽】



【水生生物水槽】

【学習指導要領】

エネルギー

粒子

生命

地球

学校種・学年	分野	内 容
小3年	内容B 生命 地球	(1)身の回りの生物-ア-(イ)昆虫の育ち方の順序、成虫の体の構成
小4年		(2)季節と生物-ア-(ア)季節による動物の活動の違い
小6年		(3)生物と環境-ア-(ア)・(イ)生物と周囲の環境との関わり(水・空気)、食物に着目した生物間の関わり
中2年	第2分野	(1)いろいろな生物とその共通点-ア-(ア)・(イ)生物の環境との関わり(水・空気)、食物に着目した生物間の関わり(3)生物の体のつくりと働き-ア-(ウ)⑦生命を維持する働き、⑧刺激と反応